

平成 22 年 4 月

「川の駅」の設置推進に向けた要望

大阪商工会議所

大阪商工会議所では、全国川の駅推進実行委員会などが核となり「川の駅」の全国展開が進んでいることを受け、2008年10月、川とまちをつなぐ接点である船着場や川沿いのレストランなどに、休憩・案内・交流などの機能を持つ「川の駅」を12ヵ所設置する社会実験を、関西圏で初めて実施した。また、2009年にも、前年に引き続き、大阪都心部に17ヵ所の「川の駅」を設置する社会実験を実施した。

こうした中、2009年8月には、全国共通の「川の駅マーク」を付けた我が国初めての本格的な常設の「川の駅」が、大阪・八軒家浜に「川の駅はちけんや」として誕生した。常設施設としての「川の駅」が“川と生きる都市”を標榜する大阪において、全国で初めて設置されたことは、全国の関係者の大きな注目を集めた。昨年10月1日に大阪で開催された「全国川の駅フォーラム」には、学識経験者をはじめ、自治体、NPO、舟運事業関係者ら100名が集い、まちと水辺の情報交流拠点として「川の駅」の推進に向けて取り組むことが確認されているところである。また、大阪で社会実験に参加した事業者からも、「川の駅」は意義あるものとして、継続の意向が示されている。

「水の都・大阪の再生」が第2ステージに入るなか、「川の駅」は、公民連携による水辺のまちづくり推進の象徴として、また来阪ビジターに対する水辺の情報拠点として、様々な施設を活用しながらその設置が望まれるところである。

また、本件の推進については、行政や経済界、民間企業などによるオール大阪の推進体制が必要であり、例えば「水都大阪2009実行委員会」の後継組織が中心となって「川の駅」の推進を担うことが想定される。

については、「川の駅」設置推進に向け下記事項を要望する。

1. 「川の駅」表示サインの積極的な設置

「川の駅」を常設化し、その幅広い利用を促していくには、川とまち双方から容易に認識しうる表示サインの設置が必要である。そこで、行政が設置した船着場などへの「川の駅」の全国共通マークを記した表示サインの設置を積極的に進められたい。

また「川の駅」を設置する民間事業者が、船着場や公園など公共空間に同様のサインを設置するに際しても、公共の目的に資するものとして、格別の配慮をお願いしたい。

2. 「川の駅」の広域展開

過去2回の社会実験では、大阪都心部の水の回廊エリアに「川の駅」を設置したが、今後「川の駅」の存在を広く一般にアピールしていくには、琵琶湖淀川流域や大阪湾岸地域などにも「川の駅」が設置されることが望まれる。

堺市にはすでに「川の駅」と称する船着場が設置されている他、寝屋川市や枚方市なども設置を検討しており、琵琶湖淀川流域や大阪湾岸地域などの自治体等に呼び掛け、「川の駅」の広域展開を是非とも進められたい。

以 上